

# 平成28年度 教育計画

## 1 本校の教育目標

白い森の国おぐにを愛し、たくましく、心豊かで、生きぬく力を身につけた小国人の育成

- 1 目標に向かって、根気強く、やりぬくたくましい生徒
- 2 豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒
- 3 確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒

## 2 めざす学校像

『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』

## 3 めざす教師像

めざす生徒像に向かって、温かな思いで、生徒に寄り添い、指導はしっかり、説いて聞かせて、急がず、褒めながら、生徒を変え続ける教師

## 4 経営の方針

- (1) 事故防止及び危機回避をすべてに優先するものとし、安全安心な学校づくりをすべての教育活動の前提とする。
- (2) 第6次山形県教育振興計画『『人間力に満ちあふれ山形の未来をひらく人づくり』つなぐ～いのち、学び、地域～』を受けて本校の教育目標及び重点を設定する。
- (3) 生徒指導の三機能を基盤とし、「小国中学校いじめ防止基本方針」に則った対応を進める。  
※「自己存在感→自己有用感」「共感的人間関係」「自己決定の場」
- (4) めざす学校像『あいさつ・合唱・ボランティアで感動をよぶ学校 小国中学校』といえる取り組みを進めることで、活力ある学校づくりを進める。
- (5) 体力の実態を踏まえ、一層の総合的な体力づくりを進める。
- (6) ユニバーサルデザインの視点の取り入れた授業改善は一層すすめ、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、「思考力、判断力、表現力」の向上を図る。
- (7) 山形県メディア教育研究協議会の開催、タブレット及び電子黒板等の導入の機会を生かし、学習活動に生きるメディア機器及びコンテンツの活用について研修を深め、活用の促進を図る。
- (8) 小中高一貫教育の取り組みである「おぐにスタンダード」への取り組みを推進し、小中高一貫教育の構想に沿った教育を推進する。
- (9) 特別支援学級及び通常学級における特別支援教育を重視し、一人一人の障がいや気質に応じた対応を進める。
- (10) コミュニティスクールの趣旨を生かし、学校経営に保護者や地域の意見を反映させるとともに、地域と協働する取り組みを進める。
- (11) 教育公務員としての自覚と使命感を持ち、服務規定の遵守と自己研鑽に努める。

## 5 経営の重点と具体策

### 1 目標に向かって、根気強くやりぬくたくましい生徒に向けた重点と具体策

- (1) 自らの命を守る教育の充実
  - ・「有用感」を切り込み口とした自尊感情を高める指導の充実
  - ・生徒、保護者、地域と連携した通学指導及びスクールバス通学保護者の協力を得ての乗車指導
- (2) 望ましい生活習慣を身につけさせる取組の充実
  - ・「おぐにスタンダード」に沿った家庭生活の改善の取り組みの小中連携による推進
  - ・「人間力向上8箇条」を踏まえ、かつPTAとの連携を一層重視した取り組み
    1. 朝食をしっかりと食べる、
    1. 毎朝排便、
    1. 遅刻をしない、
    1. 授業で寝ない

- 1. 汗をかく運動、
- 1. 風呂に入る、
- 1. 毎日勉強は2時間、SNSは1時間以内
- 1. 睡眠は7時間

・ SNSの適切な使用について、生徒会及びPTA活動の取組を充実する。

(3) 健康教育の充実

- ・ 健康診断後の精検や治療のすすめの継続
- ・ 食育教育全体計画に基づいた食育指導の充実

(4) 体力の向上

- ・ 『キビキビ行動ハキハキ返答』の体育の授業
- ・ 冬の合同部活動『炎のトレーニング』の実施
- ・ 体力課題に対応したクォータートレーニング(Qトレ)の実施
- ・ 春の体力テストに加え、持久系種目など取組を強化する種目についての秋の実施
- ・ 「おぐにスタンダード」体力づくりの小国小学校と連携した取り組み

(5) つけたい力を明確にした部活動の充実

- ・ 部活動でつけたい力(「誰が来ても(整列し)あいさつ」「返事」「キビキビ行動」)の共通指導
- ・ 指導感の一致した中での部活動における生徒指導の推進
- ・ 部活動改廃基準該当部についての学校運営協議会による検討

(6) 清掃活動の充実

- ・ 手ぬぐいは教室から、清掃の進め方など、教師側の指導の一致
- ・ 清掃リーダー指導
- ・ 清掃開始時の見とどけと活動中・活動後の称賛の継続

**2 豊かな心を持ち、互いに助け合って成長する生徒**に向けた重点と具体策

(1) 自己有用感を高める学級経営の充実と学校を休まない子どもにするための取組

- ・ 「あふれさせた言葉」のあふれる学級経営
- ・ 「なくしたい言葉」への取り組みの継続
- ・ 生徒指導の3機能(自己存在感、共感的人間関係、自己決定) + 自尊感情を高める学級経営
- ・ 不登校及び別室登校生徒担当者会の開催と専門機関との連携
- ・ 「自分を見つめて」アンケート、生活ノート記述内容についての校内対応の明確化
- ・ ハイパーQUテストの実施と結果の活用

(2) 豊かな「かかわり合い」ができる体験活動

- ・ 運動会、修学旅行、CSW、文化祭など行事における感動体験
- ・ 地域文化へのふれあい

(3) 道徳教育の充実

- ・ 仲間のよさに目を向けさせる指導
- ・ 相手を思いやる言動の指導
- ・ 県メディア教育研究協議会を意識した道徳の授業へのICT機器の積極的活用
- ・ いじめの早期発見と組織的早期対応

※参考【いじめや問題行動発生時対応の配慮事項】

- ①指摘を受けたら、その日のうち教頭に報告、
- ②対応状況は毎日家庭連絡、
- ③対応が済んでも1週間後に連絡、
- ④1カ月後にまた連絡

- (4) 生徒会活動の充実
  - ・「合唱」「ボランティア」の指導の継続と「あいさつ」の指導の充実
  - ・「五あいさつ運動」の取り組み『相手より先に五あいさつ』
    - ※おはようございます、こんにちは、おねがいます、ありがとうございます、ハイ
  - ・あいさつ運動のPTAと生徒会の連携の推進
  - ・郷土愛、豊かな心、いじめ防止、交友関係課題自己解決能力などの意識の向上を目指した小国小児童会・叶水小中生徒会・小国中生徒会との連携
- (5) 校内外生活、生徒会などの場で、生活上の問題を課題化する力の向上と自治力の育成
  - ・「生徒心得」の見直しの継続と年度当初の指導による規範意識の醸成
  - ・「小国中スタンダード」の見直しと各学年学級での指導の一致
  - ・生徒会、自治会における問題予防及び課題対応
- (6) 特別支援教育の充実
  - ・特別支援学級の進路を意識したカリキュラム作成とそれに沿った指導
  - ・特別支援学級在籍生徒への適正範囲での個に応じたきめ細かな指導
  - ・講師を招聘しての職員研修会の開催
  - ・必要な生徒に対する個別検査及び本人参加型会議の実施

### 3 確かな学力を身につけ、課題解決にあたる生徒に向けた重点と具体策

- (1) 一層のわかる楽しい授業をめざす。
  - ・授業を生徒の立場から、「分かり感のある」楽しい授業にすることと、基礎的学力を確実に身につけさせる指導の充実
  - ・ユニバーサルデザインをベースに探究型学習を意識した学校研究の推進
  - ・「関心意欲態度」の評価の共通認識
  - ・授業における聞き方指導の徹底「顔を見て」「笑顔で」「頷いて」「最後まで」「よい姿勢で」
- (2) 全国学力学習状況調査及びNRTの結果を活かした個に応じたきめ細かな指導
  - ・NRTの町全体での追跡による結果の校内での分析と活用
- (3) 基礎的基本的事項の確実な習得のための取組の充実
  - ・学年で身につけさせたい事項についての全校テストの実施
  - ・町研算数数学学力調査委員会の取り組みの継続
  - ・「質より量」を意識した家庭学習習慣の確立、週14時間、定期テスト部活中止期間1日5時間
  - ・長期休業中の学年学習会の実施
  - ・白い森学習センターの積極的活用
  - ・数学、英語の習熟度別授業の積極的導入
- (4) 読書活動の充実
  - ・週時程への読書の時間の確保と『50分読書』の取り組み
  - ・目標読書量の設定（年間2000P）とその達成のための取り組み
  - ・家庭での読書の機会の啓蒙
- (5) 応募活動の重視
  - ・計画的応募活動の継続
- (6) 教師の指導力を向上する。
  - ・年3回の全員参加研究会の他、その他の全職員による「1ペーパー授業研」
  - ・志水教授による授業改善実践プログラムによる研修会と授業診断の実施
- (7) メディア教育の充実
  - ・情報機器の新規導入と情報教育の推進
  - ・H28山形県メディア教育研究協議会に向けての校内研修の推進